

① 金剛山 紹運寺 こんごうざん じょううんじ



三池藩主立花氏の菩提寺として、二代当主立花種次により、元和7(1621)年に建立された曹洞宗の寺院です。寺の名前は、藩高祖高橋鎮種(しげざね)の法号「紹運」から付けられています。

●二代当主立花種次の墓



二代当主立花種次は、三池藩初代藩主です。初代当主の直次は三池の地には来ていませんので、種次が最初の殿様になります。



高橋紹運は、戦国大名の大夫宗麟の家臣で、筑前・筑後を治めていた戦国武将です。天正14年岩屋城での戦いで玉碎。長男統虎(むねとら)は立花家の養子となり立花宗茂を名乗り、豊臣秀吉率いる島津討伐軍に加わり、薩摩に幽閉されていた母と次男統増(むねます)(直次)を救出します。この功績により、立花宗茂には筑後四郡、直次には三池郡の内、1万8000石が分与されました。

●歴代三池当主墓地

左手から3代、5代、4代、6代と並んでいます。3代種長は国指定重要文化財になっている水路橋早鐘眼鏡橋を造りました。5代貫長(やすなが)は、享保の大飢饉の時に善政を施し領民に慕われたということです。



●早鐘眼鏡橋について

延宝2年(1674)に早鐘池の用水を通すために大牟田川に架けた石造アーチ型水路橋で、この様式では日本最古。



国指定重要文化財

- ① ●紹運と直次の供養塔
- 岩屋城戦死者供養塔
- 朝鮮役戦死者供養塔

② 金比羅宮登り口

●庚申塔  
鳥居の側に「庚申尊天」と刻まれた石碑があります。(普光寺にある「猿田彦太神」と刻まれた石碑も同じ)庚申塔とは干支に由来する信仰碑で、昔、60日に一度の庚申の日には寝ずに過ごす庚申待という風習がありました。

③ 金比羅宮(白峰宮)



三池山中腹標高180m位の高い石段の上、静かな木立に囲まれたお社。本来は海の守護神で、現在は海は見えませんが、建立当初は海岸線がもっと内陸にあったので有明海を臨んでいたものと思われます。かつて、社までの石段の両側には桜並木が見事だったが、現在は竹に覆われています。

▶麒麟(柱飾り)

④ 字今山 實成院 普光寺 うこんざん じつじょういん ふこうじ

大牟田市で最も古い天台宗総本山比叡山延暦寺の直末寺です。弘仁14(823)年嵯峨天皇の第八皇子・三毛中納言源親公による開基、開山は最澄の高弟慈覚大師円仁といわれています。ご本尊は秘仏(25年に一度の御開帳)千手観世音菩薩です。かつて、三池山が仏教修行の場であり、普光寺も多数の堂塔伽藍を持っていましたが、天災や戦火で失われました。その後江戸時代に近隣領主の帰依により再建し、檀家を持たないという特徴を持っています。



●臥龍梅(県指定天然記念物)

龍が臥せているような樹形から臥龍梅と呼ばれています。樹齢400年から800年といわれています。南側の親木から北側へ幹や枝を伸ばし、18株から成る八重咲きの紅梅です。



●本堂(観音堂)

江戸時代の建立。「一間四面堂」の形式で中世の密教仏堂に見られる構成で稀少で重要な建物です。



●木造薬師如来座像(県指定文化財)



●木造慈覚大師座像(県指定文化財)

●石塔群

この石塔群は、この普光寺一帯の三池山麓に散在していたものを昭和の初めに集め、配列したものです。五輪塔・宝篋印塔など合わせて83基あり、これらは鎌倉末期から戦国時代の約200年間のものです。県指定文化財(考古資料)

●金剛力士(仁王)像(市指定文化財)

●不動明王板碑(県指定文化財)

一の山(今山岳・三池山)一帯は、伝説とロマンに満ちた霊山として崇拜されて来ました。また古くは、仏教の修行場でもあり、多くの寺院がありました。戦国時代には、山頂に今山城を設けて戦場にもなった所です。

⑤ 八大龍王宮(下宮)



江戸の初め田中吉政が建立したといわれる。水、風を司り、雨乞いや五穀豊穡を祈願しました。

⑥ 三池宮(上宮)



霊泉・三つの池の出現により、千早に霊験あるということで三池宮を五穀豊穡の神、大権現として崇拜されるようになったと考えられています。



※三池宮と八大龍王宮の間に長田権現宮(中宮)があります。

●大蛇とつがいに伝説

「その昔、お姫様が蛇に飲み込まれそうになった時、蟹(つが)が出てきて、大蛇を三つに切り、お姫様を助けたということです。この時、三つに切られた大蛇が苦しみ暴れた跡がくぼんで三つの池になった」という伝説が伝わっています。この三つの池の一つは有明海とつながっているとも言われ、この池の水は枯れる事もなく、旱魃や虫害に霊験があると信じられ、信仰を篤くする理由のひとつとなっています。

⑦ 熊耳山 定林寺 ゆうじざん じょうりんじ



中世三池氏の菩提寺。建立は1199年三池季時と言われるが、諸説あり不明。「アジサイ寺」と呼ばれる程境内いっばいに植えられたアジサイが見事です。

●油徳利と幽霊伝説

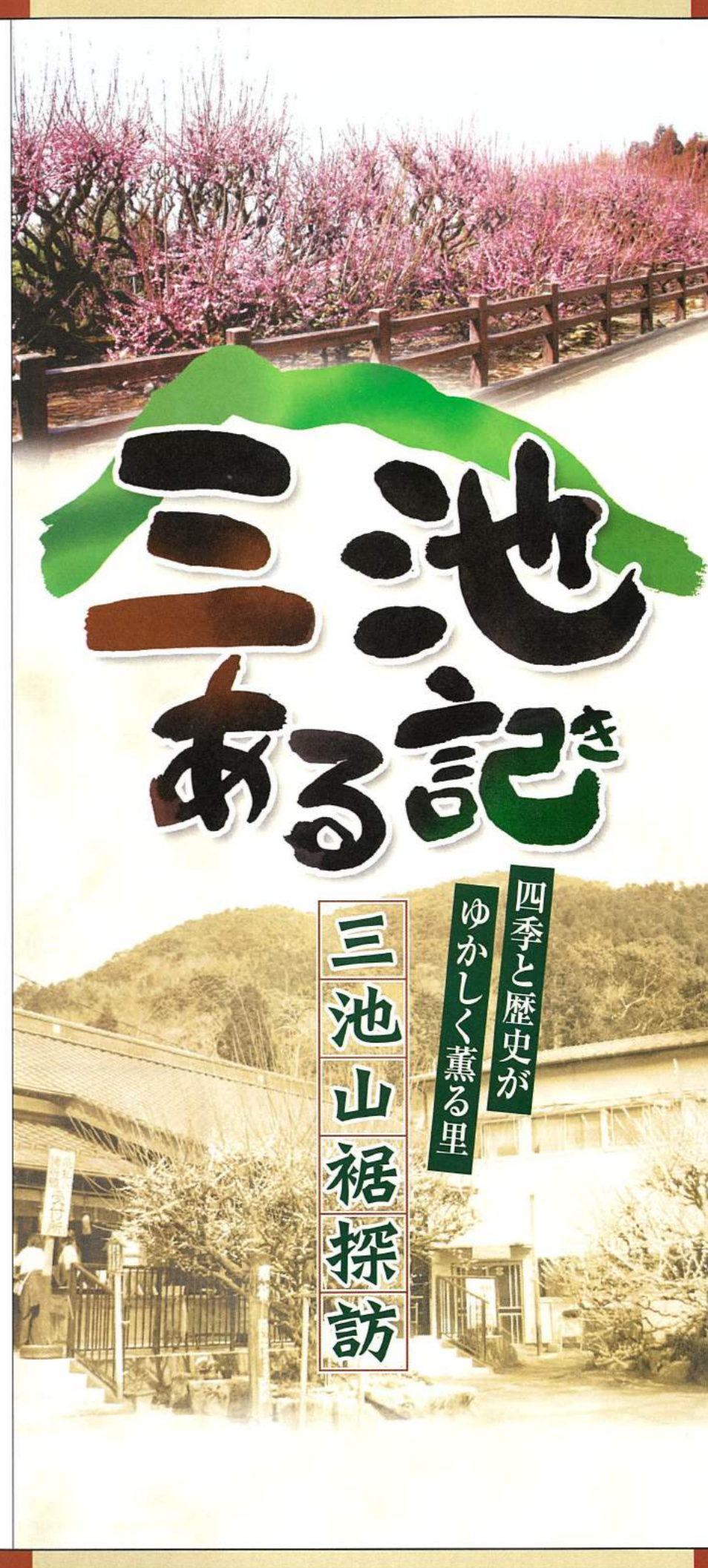
祖門和尚は江戸時代中期の人で、荒れた寺の修理費用捻出のために倅約を始めました。油を買う時も「五合くれ」と言って徳利に油を入れさせ、値切り交渉が決裂すると油を店に返しました。油は粘り気があるので、徳利の内側には油が残るのです。こうして貯めた金を家老にだまし取られ「七代まで祟るぞ」と言い残して死にました。以来、和尚の幽霊が夜な夜な出る...という話です。



●三池氏供養塔

戦国時代の筑後地方の国人領主のひとり、三池11代の墓塔塔身が定林寺裏の池より見つかり、これを三池藩主7代立花種周が新たに覆塔を造立したものです。

境内いっばいに植えられたアジサイが咲きほこり、見物客が多く訪れます。定林寺のアジサイは剪定されず、自然のままの植生です。

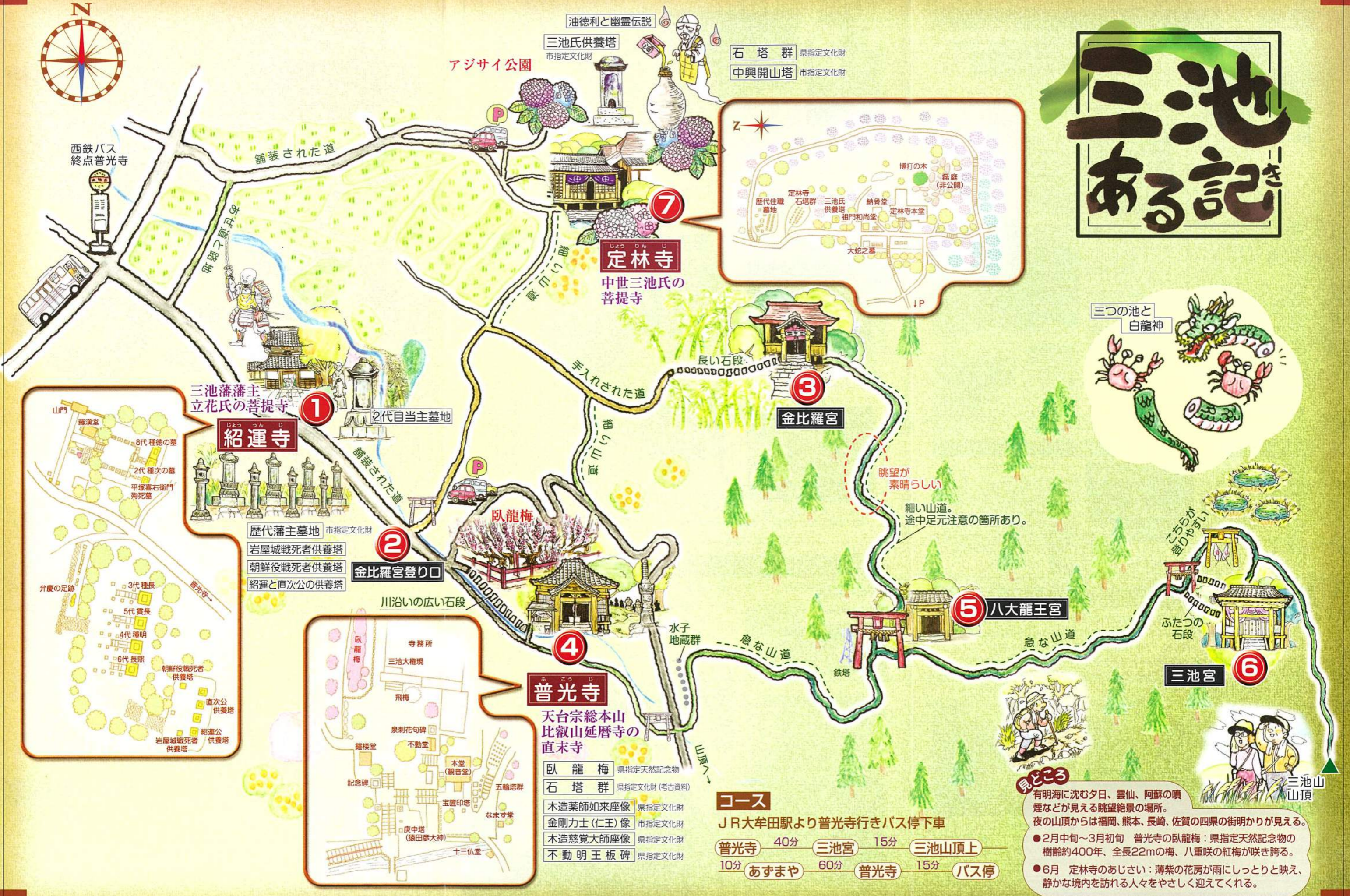


# 三池ある記

四季と歴史が  
ゆかしく薫る里  
三池山裾探訪



# 三池 ある記



**1 紹運寺**  
三池藩藩主立花氏の菩提寺

2代目当主墓地

歴代藩主墓地 市指定文化財

岩屋城戦死者供養塔

朝鮮役戦死者供養塔

紹運と直次公の供養塔



**4 普光寺**  
天台宗総本山比叡山延暦寺の直末寺

臥龍梅 県指定天然記念物

石塔群 県指定文化財(考古資料)

木造薬師如来座像 県指定文化財

金剛力士(仁王)像 市指定文化財

木造慈覚大師座像 県指定文化財

不動明王板碑 県指定文化財

**コース**

JR大牟田駅より普光寺行きバス停下車

普光寺	40分	三池宮	15分	三池山頂上	
10分	あすまや	60分	普光寺	15分	バス停

**見どころ**

有明海に沈む夕日、雲仙、阿蘇の噴煙などが見える眺望絶景の場所。夜の山頂からは福岡、熊本、長崎、佐賀の四県の街明かりが見える。

- 2月中旬～3月初旬 普光寺の臥龍梅：県指定天然記念物の樹齢約400年、全長22mの梅、八重咲の紅梅が咲き誇る。
- 6月 定林寺のあじさい：薄紫の花房が雨にしっかりと映え、静かな境内を訪れる人々をやさしく迎えてくれる。